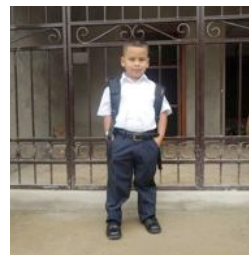




¡Hola! desde Nicaragua

☆青年海外協力隊 ニカラグア通信 No51☆ 2013年2月14日 発行者 夏目佳代子

¡Hola! 12月半ばからの長い夏休みが終わり、2月11日から新学期が始まりました。ホームステイ先のウィリアムシートも今年から幼稚園に通います。幼稚園も小学校と同じ校舎にあり、制服は幼稚園から高校生まで共通の白いシャツに紺色のズボン、スカート、黒の靴です。新しい制服に身をつつんだ子どもたち、朝6時半ごろから学校に向かっています。一方、私の又エバギネア生活は残り1ヶ月ほどになってしまいました。別れる日のことはあまり考えたくはないけれど、最終報告会や帰国に向けての準備を考えると考えざるを得ない・・・「いつ日本に帰るの?」「3月だよ。」「また戻って来る?」・・・う～ん、どう答えよう・・・またいつか会いに来たいけれど、日本と又エバギネアまでの往復の移動だけでも5日ほどかかるとなると、いつ来られるかは自分でも分かりません。でも「もう来られないよ。」とは言いたくないな・・・改めて、ニカラグアでの多くの人たちとの出会いと、一緒に過ごした時間が自分にとって本当に大きなものであることを感じます。



☆僕学校に行くんだ～!

☆アートマイル到着！ただいま制作中

12月末に日本を発ったアートマイルの壁画、なかなか届かず、途中で紛失してたら・・・と心配していましたが、1月24日にようやく届きました！ニカラグアでのインターネットの普及は驚くほどで(ホームステイ先はワイヤレスになりました。)日本に瞬時にメールを送ったり、電話で話したりできるようになったけれど、やっぱり地球の反対側にある日本は遠いなあ～と思いました。首を長くして待つ

ていた子どもたち、みんなでそろりそろりとテープをはがし、中を開けると・・・



たくさんの折り紙の作品。「かわいい!」「鶴だ!」「しゅりけんだ!」と以前折り紙で作ったのを覚えていた子もいました。そしてクリスマスカード!ニカラグアでも



テレビ放送されているアニメのキャラクターのイラストに注目が集まりました。福寿小の子どもたちからのプレゼント、みんなとっても喜んでいました。そして、最後に出てきたのが壁画です。とっても大きくて、縦1.5m

横3.6mあります。「大きい～!」と子どもたち。そして「何で木がピンクなの?」と聞かれました。真ん中の木をどうするか、最初は地元で穫れる果物や、花などを描くという案を送ったのですが、日本の桜とニカラグアの国花のサクアンフォチェを描くのはどうかと



ということになり、話し合いの中でみんな賛成しました。でも、実際に木全体がピンクに塗られているのを見ると、不思議に感じたようです。よく考えると、ニカラグアで花だけ咲いて葉っぱは後からという木は見たことがないな・・・もう一度桜が満開に咲いた写真を見て、みんなも納得。分担して下絵を描き始めたのですが、キャンパスの素材はテントのような厚いビニール製なので、薄く描くとあまり見えず、濃く描くと今度はなかなか消えず大変でした。下書きの後はいよいよ色塗り。完成までもうすぐです。

☆ニカラグアのごはん その15 飲み物編

前回の通信では、くだものジュースについてお伝えしました。他に、どんな飲み物があるのでしょうか？一番よく飲まれていると思われるものは・コーラです！みんな大好きで、500ml, 1L, 1.5L, 2.5L, そして3Lのボトルまで売っています。500mlで約50円くらい、3Lで約150円です。家や食堂では、みんなごはんと一緒にくだものジュースかコーラや炭酸飲料を飲んで



☆ニカラグア式牛乳の飲み方

そして、コーヒーもよく飲まれます。ニカラグア北部の山間部はコーヒーの産地で、国の主な輸出作物でもあるのです。コーヒーの実がなっている所をニカラグアで初めて見ました。初めは緑、そして赤に変わると収穫時、一粒一粒手で摘むのです。又エバギネアの多くの方は、コーヒーメーカーやドリップではなく、鍋に水とコーヒーを入れ、煮立ててから漉して飲んでいきます。インスタントコーヒーもよく飲まれます。でもこんなに暑いのに、アイスコーヒーは見かけません。「カフェネグロ(ブラックコーヒー)」というと、砂糖たっぷり入りが出てきます。「砂糖なしで。」



☆小さな鍋で毎日コーヒーをいれます。

と言うと「カフェアマルゴ(苦いコーヒー)を飲むのね！」とびっくりされます。ニカラグアのコーヒーは苦みや酸味が少ないので、こちらに来てから牛乳を入れなくても飲めるようになりました。日本ではあまりニカラグア産のコーヒーを見かけませんが、もし出会ったらぜひ飲んでみて下さい。



☆いろいろなサイズがそろっています。



☆コーヒーの実とその中。
収穫後、発酵、乾燥させます。

☆何でも屋さん、プルペリア

又エバギネアで食糧や日用雑貨を買うのは、数年前にできた「Palí」という全国チェーンのスーパーか、市場、そして人々の生活に欠かせないのが「プルペリア」。パン、お菓子、飲み物、肉や卵、そして日用雑貨から文房具、アクセサリ、薬まで何でもそろう「よろず屋」です。店内は棚の上から下まで、さらには天井からぶら下げられているものまで、商品で



☆朝早くから店に立つアウラのママ

ぎっしりです！直接ペンで値段が書かれているものもあっておもしろいです。町のどこでもちょっと歩けばプルペリアがあります。家の軒先で営んでいる人が多く、アウラの家もプルペリアです。彼女が店番をしているときに時々一緒にいるのですが、いろいろな人が「ブエ～ナス(すみませーん)」と行って買いに来ます。パンや卵など1個から買えるので、その時必要なものを必要なだけ買っていくという感じです。聞くと、朝はパンやコーヒーの粉、砂糖、洗剤など、昼からはお米、肉や野菜、炭酸飲料など、学校が終わると子どもたちがお菓子やジュースを買って行くそうです。店先には、容器に入ったあめやお菓子が置かれ、小額のおつりをもらうかわりにその分の駄菓子を買っていく人もいます。子どもたちもよくお使いに来ます。自分で商品を手にすることも



できますが、多くはお店の人に「〇〇ください。」と言って売ってもらいます。安全上、鉄格子越しにほしい物を言って売ってもらうところもあります。買い物に来たついでにおしゃべりをしたり、ちょっとテレビを見て行ったり。日本はコンビニができてとても便利になりましたが、こんな風にお店の人と顔を合わせて買うのもいいなと思います。